

放送大学 北海道同窓会会報

第 33 号 発 行

放送大学北海道同窓会発行責任

者 沖 野 茂 夫

発行日平成 30(2018)年 11 月 30 日(金)

URL:<http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 228 名

(2018 年 11 月 30 日現在)

「今年は活動にも震災の影響が」

放送大学北海道同窓会
会長 沖野 茂夫

今年の北海道は、これまでにない規模の台風と地震に襲われ、会員の皆様も随分と不便な生活を強いられたのではないかと思います。或いはまだ復旧途中という方もおられるかも知れません。先ずは心よりお見舞いを申し上げます。



さて同窓会の事業運営は、こうした災害によってイベント等の実施は無理なのではないかと思わざるを得ない場面もありましたが、役員の皆様のご尽力によりこうした事態は回避することができ、これまでのところ延期や遅滞もなく実現できております。これも役員の努力に加えて、イベント等の開催の都度、役員をサポートいただいている会員の方々の支援が大きな力となったと考え感謝いたしております。今年度もまだいくつかの事業が予定されていますので、引き続きご協力をお願いいたします。

さて今年の活動は 7 月 3 日発行の会報 32 号で概要を予告させていただいておりますが、いくつかの事業が例年とは若干異なる内容で実施されています。まず 10 月 13 日開催されました「第 16 回 放送大学研究発表会」は、放送大学に集う同窓会・学友会などの学生サークルに学生・同窓生と北海道学習センターで構成される実行委員会の決定により、年二回開催で一回二例の発表という内容から、年一回四例の発表へと大幅な内容変更がなされました。

一度に四例の発表は、発表者の日程調整やテキストの作成等々で事務局側に大きな負荷が予想されましたが、それぞれの分担を粘り強くこなしていただき無事開催に漕ぎ着けることができました。また発表者もこうした努力に呼応するように、独自性のある研究をいっそう煮詰めて、さらに工夫を凝らした発表につなげていました。改めてこの発表会のレベルの高さを、大学の内外に知らしめたと感じています。

研究発表会の開催日に学務で学習センターを訪問されていた大学本部の池田龍彦副学長も、お忙しい仕事の合間を縫って会場に足を運ばれ、時折メモを取るなどして発表に熱心に聞き入っておられました。研究発表会に先立つ 9 月 15 日(土)と 16 日(日)に、北海道と東北 6 県持ち回りで開催される「東北・北海道ブロック同窓会交流会」の 6 回目の会合が、札幌で開

催されました。この時期の札幌は、いろいろな分野の学会が多数開催されることや旅行シーズンが重なることから、宿泊施設の確保が困難な時期です。今回も参加者全員の一か所での宿泊施設の予約はかなわず、参加者には各々半年以上も前から宿泊先を確保いただくなどの負担をいただきました。

さらに開催の10日前には地震が発生し、空港ビルの閉鎖や列車の一部不通があり宿泊先の安全確保にも不安が生じ、開催そのものの可否が問われる事態となってしまいました。しかし同窓会連合会と東北各同窓会の皆さんにそれぞれ交通手段の確保と宿舎の安全確認をしていただき、さらにメールや電話で励ましと応援を頂戴するなどして、なんとか開催することができました。関係者の皆さまには紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、今年度の残りの事業の主なものは「平成30年度第2学期卒業を祝う会」開催と、それに先立つ「学位記授与式」の出席です。この学位記授与式には学習センターから同窓会の代表が祝辞を述べる機会をいただいています。

祝辞は例年、卒業生・修了生にいろいろな困難を抱えての卒業に敬意を表することを主な要旨としていますが、それとは別に卒業を機に同窓会への関心を持っていただき入会につながるような内容のお話も盛り込むことにしています。9月22日（土）行われた学位記授与式では、同窓会という言葉の由来について、私なりに調べた結果をお話しました。

概略しますと「なぜ同じ学び舎・学校という言葉に『窓』という言葉をあてているのか」との点について、「窓」という言葉は中国のある歴史書からの引用で、明治維新後の新しい学校制度のもとで学業を終えた人々が使い始めた言葉との私なりの考えを申し上げます。

春秋時代にあった国の一つ「晋」の歴史を記した「晋書」に、苦学をして出世をした二人の人物が描かれています。一人は車胤（しゃいん）もう一人は孫康（そんこう）という人物です。

二人はともに貧しくて、役人の任官試験の書物を読むために必要な灯油を買うお金がなく、車胤は蛍を数十匹捕まえて、絹の袋にいれてそれを明かりとしました。孫康は窓辺に雪を積み上げて、その雪の明かりに照らして書を読んだとあります。この蛍雪の物語のなかの「窓」を学舎に例えて、明治の人はそこで同じく苦学を経験した自分と仲間を同窓生と呼んだのだと思います。

以上のお話が同窓会への関心を惹起できているのかわかりませんが、今後とも、同窓会の活動をPRできる場があれば出来るだけ活用していきたいと考えています。会員の皆さまには、研究発表会や文化祭のポスター等を通じて同窓会の広報担当の役割を担っていただいております。引き続きご協力をお願いいたします。

第10回文化祭開催しました

「第10回文化祭を振り返って」

第10回文化祭実行委員長 庄子 京子

テーマ ～10年の絆を明日^{あした}につなぐ～

10年の節目を迎えた文化祭になりました。

実行委員会では、先輩のご労苦に思いを馳せて文化祭の第1回からをまとめました。

9月15日、文化祭と同じフロアで東北・北海道ブロック同窓会交流会が開催されました。この直前に台風上陸、北海道胆振東部地震発生にも拘わらず、東北の方々も参加され、文化祭の講演、展示室にも来て下さいました。



講演は、北海道大学大学院からミシェル・ラフェイ准教授に来ていただき、「札幌農学校と北海道」のお話をしていただきました。札幌農学校はクラーク博士の教えから、世界で活躍する人材を輩出しました。講演では、内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾を中心にお話をしていただきました。東北六県の同窓会役員、岩永

雅也副学長、同窓会連合会会長なども出席し、参加者は94名と大盛況でした。

<サークル、ステージ> 英語サークル代表の挨拶のあと、フランス語サークルは「さくらんぼ実る頃」の独唱と「オー・シャンゼリゼ」の合唱、「文化祭のあゆみ」はパワーポイントで第1回から第9回までを振り返りました。

[加藤栄さん・漢文素読] 年齢を感じさせない力強い声で朗読し、会場の参加者も聞き入っていました。



[うたの会の合唱] 学歌、道放生賛歌など4曲を披露しました。



[朗読・手品・落語] 中川俊二さんは宮沢賢治の「花の童話集」から「めくらぶどうと虹」、松宮さんの手品、[落語]は北大落研の鳳亭流街さんの演目「妾馬（めかうま）」など好評でした。



[弾き語り]最後のギターの菊池さんは心に響く歌声でした。配布された歌詞カードを見ながら6曲歌った後のリクエスト曲「見上げてごらん夜の星を」も皆さんと一緒にうたいました。

〈第4回ドイツ映画祭〉前センター長筑和正格先生のご厚意(VTRの貸与・映画解説)で、1日1作品、3日間行いました。毎日20名を超える方々が来て下さいました。

〈展示〉大学内外から幅広い作品が集まりました。「シベリア抑留の体験を語る」、「ダバオ新聞による在留邦人の特徴」パネル発表、絵画、写真、アートフラワー、アイヌ紋様刺繍、前田春香さんの絵のコーナー、折り紙、絵手紙、文化祭のあゆみも展示しました。

〈バザー〉英語サークル・実行委員会に属さない在学生等の協力を得て、熱心に取り組みました。浄財を寄付してくださった方々、また、品物を買って下さった方々のご協力に感謝いたしますとともに、関係者の皆さまにお礼申し上げます。(今回の売上金は19,565円でした。)

昨年12月、新田センター長に講師のご相談をさせていただいてから私達は文化祭成功に向けて取り組んできました。開催直前に北海道胆振東部地震が発生し、厚真をはじめとする甚大な被害に呆然としつつも私達は開催に向けて力を尽くしました。

新田センター長、事務室の皆さま、実行委員会の皆さま、ご協力いただいた全ての皆さまにお礼を申し上げます。

第6回放送大学東北・北海道

ブロック交流会

同窓会交流会報告書

北海道同窓会会長 沖野茂夫

実施日時 平成30年9月15日(土) 9月16日(日) 実施場所

放送大学北海道学習センター 6階 中講義室

サッポロビール園(9月15日懇親会)出席者

- ① 同窓会連合会 会長 佐々木慎二／監事 須藤國夫
- ② 青森同窓会 会長 関川宏明／副会長 田澤 豊／会員 河村卓也
- ③ 岩手同窓会 会長 森 友江／事務局長 菊地秀幸／理事 米澤弥志夫
- ④ 宮城野会 会長 佐々木美枝子／副会長 佐藤摩利子 理事 佐々木幸江
- ⑤ 秋田同窓会 会長 高橋晴子／事務局 菅野順子／事務局 福岡勢子
- ⑥ 山形同窓会 代表 柳澤 卓／幹事 岡崎由美子／幹事 伊藤典子

⑦ 福島同窓会 会長 西村洋文／理事 石田義明

⑧ 北海道同窓会 会長 沖野茂夫／副会長 宮崎新吾／副会長 中根恵美子 幹事 鈴木 誠
／幹事 大橋ちよ子／幹事 岩崎英子 名誉会員 加藤 栄／名誉顧問 富田房男
榊原峰子／ホーター 駒澤 暢子

○ 9月15日 第一部（挨拶・文化祭講演会）



交流会の冒頭で佐々同窓会連合会長から、地震直後にもかかわらずこの会が開催できたことへの感謝と労いの言葉がありました。また地区交流会に期待することとして、同窓会と地域社会の関わりを重視する観点から、同窓会の地域でのユニークな活動を紹介いただきたいとの希望が述べられました。また幹事同窓会を代表して沖野から「地震直後で、いまだ地震被害の報道が続くなかで会議へ参加いただいとことへの参加のお礼。航空機や列車の運行が危ぶまれる中での、手を尽くして来札いただいたことへの謝意。地震発生 of 混乱による事前準備不足からくる不手際への懸念」についてお話させていただきました。



次いで場所を大講義室に移して、今回の課題の一つである交流会と文化祭の融合の実例としての文化祭での講演会をお聞きいただきました。講演者は北海道大学大学院文化研究科のミシェル・ラフェイ准教授で講演テーマは「札幌農学校と北海道」でした。内容は札幌農学校の学

生が訪れた北海道の各地をたどりながら、彼らが何を経験し、その思いでから如何に自分自身を発見していったのか、その軌跡を追うものでした。北海道の歴史を知るための手法としてはユニークな側面からの接近で、かつ本州の歴史とは全く異なる過程で成立した歴史のためか参加者も興味深く聞き入っていました。



○ 第二部（副学長講演会）

今回の交流会では、放送大学本部としての新しい取り組みがありました。それは6つある地区交流会に大学の幹部先生が出席して「放送大学の現在の課題と同窓会やセンターへの期待」について講演形式でお話をするというものです。東北・北海道地区には岩永雅也副学長がご出席になり「放送大学新時代へ」と題した講演をしていただきました。

講演に使われた資料の表紙にはトピックの1として、北海道同窓会の名誉会員である加藤栄さんの「99歳卒業生のさらなる挑戦」という放送大学のニュース・リリースが使われ、続く

トピックには「初めての博士後期課程修了生が輩出」と「面接授業の多面化」がとりあげられていました。

さらに今後の大学運営の新たな展開を「放送大学新時代」と題して、これまでの放送に加えて「人生100年時代における社会人の多様な学び直しや生涯学習のニーズに応え、単位認定を前提としない、様々な学びの機会を提供するチャンネルを提供する」との抱負もお話いただきました。

第三部（各同窓会の情報交換会の資料発表）



も、センターが主催する研修旅行（もりおか啄木・賢治青春会、原敬記念館等）やゼミに参加し、定期的な意見交換会を実施している。

・宮城野からは、同窓会の開催する研究発表や修士論文発表会にはセンター長・先生がたにも出席及び講評をいただき、懇親会にも参加いただいている。センター主催の行事には同窓会も積極的に参加し、挨拶等の機会をいただいている。・秋田同窓会から



・山形同窓会からは、これまで参画型の同窓会ではなかったが、昨年の交流会を開催する課程で会員からの参加・協力が得られ、会員同士の交流が深まった。また、学習センターとサークルゆうがくの会との今ある連携をこれからも大切にしていきたい。



以上3同窓会の活動からは、学習センターとの友好関係の構築が同窓会活動の要諦であるとの考えが示されました。



・青森同窓会からは、昨年、センター長や事務長も参加して大いに盛り上がった、八戸港を屋形船で2時間周遊する「屋形船ツアー」を今年も実施する予定との紹介がありました。



・今年発足したばかりの岩手同窓会からは発足以降の活動報告と、今後の課題として「会員同士の交流会の開催、学友会との話し合いのもち方」等の構想が提示されました。

・次年度の交流会の幹事で設立3年目の福島同窓会からは、基礎固めの時期ではあるが、機関誌「樺」の発刊の実現や効率的な同窓会運営のノウハウの蓄積がなされつつある。いろいろな経歴をもつ会員の経験や知識を活動に生かしていくとの抱負が披瀝されました。





・最後に北海道同窓会から年間の方針に基づく活動の紹介と、地域でのユニークな活動の一例として「北海道海浜美化を進める会」との協力事業を紹介しました。



見学会・懇親会

会場をサッポロビール園に移して、はじめにサッポロビール博物館で北海道ビールの歴史と製造過程について、同窓会の名誉顧問である富田先生の巧妙な解説をいただきながら学習しました。懇親会には富田名誉顧問をはじめ、新田センター長のほか岩永副学長も加わって、同窓会が抱える日ごろの悩みや問題をお聞きいただきました。同窓会の面々もすぐに打ち解けて、忌憚のない会話が交わされていっそう親交が深まりました。



○9月16日（日）同窓会連合会からの情報（報告・連絡・依頼・相談など）

・はじめに連合会から近年、交流会の統一テーマとして「同窓会及び学生の地域でのユニークな活動状況・概要紹介」を掲げている理由として、社会的存在感の大きい学生や同窓会を発掘し紹介することにより、放送大学を広く社会に発信に資するためとの説明がありました。取り組みの発表の場として、こうした交流会や総会時の検討会を活用したいとの方針も説明されました。そのほか本部主催の「卒業・修了式祝賀パーティの参加勧誘」「ホームページのリニューアル」「同窓会報のメール配信とバッジの販売促進のお願い」についての説明がありました。最後に7か所あるサテライトの同窓会情報についての本部の認識が示され、先ずサテライトの状況を同窓会からヒヤリングすることから始めたいとの考えが示されました。

・その後フリートークに移り「卒業名簿を同窓会等に提示した場合の情報管理」「同窓会と学友会との関係の在り方と現状」「地域活動の事例」「同窓会役員の確保」等について、連合会本部と各同窓会との間で熱心な意見交換がなされました。



○北大構内の散策と中央食堂での昼食

会議でのすべての日程を終え、学友会メンバーによる案内・説明で、まだ台風であちらこちらに倒木が見える構内を散策しました。「日本に居るとの感じがしない」「こんな広大なキャンパスとは想像していなかった」との感想があるなか、中央食堂に向かいました。味わいのある雰囲気のある建物とボリュームのある料理を楽しみながら、次回の福島での再会を約束しました。

第 16 回放送大学研究発表会開催

「第 16 回放送大学研究発表会が行われました」

第 16 回放送大学研究発表会実行委員会実行

委員長 宮崎 新吾 本年 10 月 13 日（土）に「第 16 回放送大学研究発表会」を開催しました。

昨年 9 月に、第 15 回を数えた放送大学研究発表会は皆様方のお力添えによって、素晴らしい研究発表会とすることができ、こうして第 16 回も本当に充実した研究発表会とすることができましたことは、皆様のご協力のおかげさまであると実行委員一同深く感謝しております。また、第 16 回から学習センター所長のご配慮もいただき、学生の発表数を大きく増やしました。あわせて、実施回数も年一回として、その内容もより濃いものとしたしました。

この研究発表会は、放送大学が誇る大学院で研究をされた方々を中心に、最先端の研究成果を発表していただく場であるとともに、学部を卒業された方々の中からも、興味深い研究をされている学生を選定して、比較的身近な仲間たちからの発表の場となるよう位置付けております。また、この発表会を通じて、参加された皆様が楽しみながらより知見を深めること、そして、次回は自分も発表してみたいと思っていただけるよう開催しているものであります。運営は実行委員会形式をとり、学習センター、学生、学友会などの学生サークル及び同窓会の融和をはかり、協働して、皆で企画運営してきているものです。現役の学生として学習センターや学生サークルに日常的に親しんでいる方はもちろん、同窓会の会員として、卒業生として新た



な道に進んでいる人、また、再入学して勉学に励んでいる人など、様々な人たちが一体となって、まさに自分たちでつくる、「聞いてよし」「発表してよし」「運営してよし」の三拍子がそろった研究発表会であります。

さて、今回の研究発表会の記念講演は、放送大学北海道学習センター所長・北海道大学名誉教授の新田孝彦先生にご講演をお願いいたしました。先生には、本当にご多忙な中、講演を快諾していただき、「倫理の論理 - 常識で読み解くカント倫理学の基底」と題しましてご講演頂きます。今回は、善悪や正不正の基準は何であり、それを正当化する根拠はどこにあるか。近代において、その

答えの一つとして、人間の理性に倫理を基礎づけたのがカントでした。このカント倫理学の基底にある論理に迫るということを中心に、はじめてお聞きになる方にもわかりやすくご講義いただきました。講演は、社会は道德（倫理）規範によって、結び付けられている「道德共同体」であるが、その道德（倫理）規範はきわめて多様である。そこで、多様な道德（倫理）規範の基底にはすべての人類に妥当する「論理」に支えられた規範が存在するのではないか？という問題意識のもと、その一つの答えとして、カントは「理性的存在者」とであるというところに、すべての人間を結びつける紐帯を見出した、ということから丁寧に教えていただきました。その中で、図解も交えながら規範の根拠として「なぜ人を殺してはいけないのか」という

わかりやすい例を用いて、瀬戸内寂聴や野坂昭如などの作家の見解を紐解きながら、教えていただきました。

学生の部は4題発表がありました。

1 題目は、放送大学教養学部自然と環境コース卒業の政川俊康さんによる、「初期宇宙におけるダークマター挙動のN体シミュレーション」と題しまして、宇宙空間に存在するダークマター（電磁相互作用をしない、つまり触ったり圧力を感じたりできないが、重力の影響を受ける物質）のシミュレーションの発表をしていただきました。大変難しいテーマでしたが、質問も多く、参加者の知的

好奇心を大いに刺激する内容でした。



2 題目は、同じく放送大学教養学部人間と文化コース在学中の矢舗真理子さんによる、「マリー・ローランサンと自画像」と題しまして発表をしていただきました。発表では、



マリー・ローランサンの生涯におけるライフイベントと、作風の変化の関連性という今までにない着眼点からの発表で、美しいスライドとともに参加者を魅了しておりました。3 題目は、同じく放送大学教養学部情報コース卒業の堀口貴恵子さん



による、「フランス料理と日本料理の成立史の比較について」と題しまして発表をしていただきました。こちらは、フランス料理が素材に手を加えて素晴らしい料理にしている、いわゆる「足し算の料理」に対して日本料理は如何に素材本来の旨味を引き出す

かという、「引き算の料理」であるとの研究で、参加者の多くが大きくなっていました。



4 題目は、放送大学大学院社会経営科学プログラム修了の飴田美佳さんによる、「プロスポーツにおけるセカンドキャリア考察」と題しまして発表をしていただきました。飴田さんには、学部の卒業の際にも同様の研究を発表して

いただいております、今回はさらにそれらを深化させた内容となっております。スポーツ選手はサラリーマンなどと比べて就業期間が短いことが多く、そのセカンドキャリアは選手にとって重要なテーマで、それを実際にインタビューして研究されているのは素晴らしいと参加者からも称賛の声が上がっております。

今回の発表も、学習センター所長、学友会をはじめ多くの方々からご協力をいただき、参加者が約 100 名近い方々に参加していただくことができました。これもひとえに皆様のおかげだと感謝しております。また、第 17 回も開催する予定ですので、是非一度ご覧ください。



第 16 回 放送大学研究発表会アンケート 集計報告

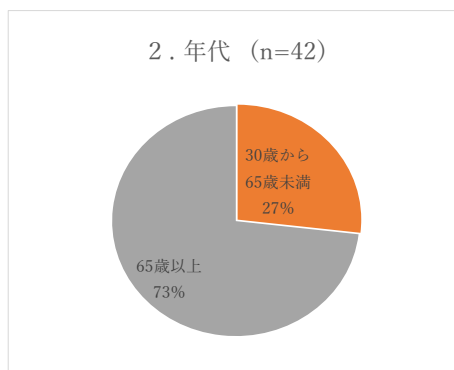
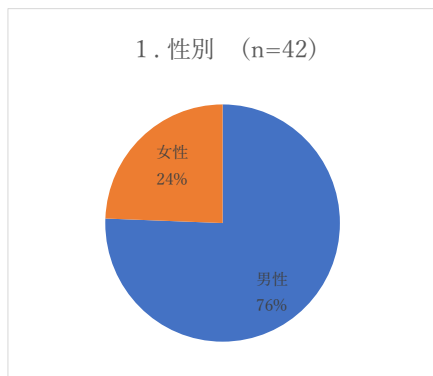
平成 30(2018)年 10 月 13 日実施
放送大学研究会実行委員会

✓ アンケート方法

- 受付時に資料と共に配布し、研究発表会終了後に回収。
- アンケート有効回答数 42

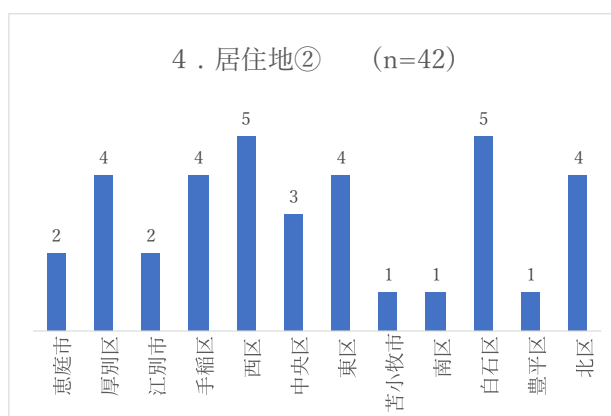
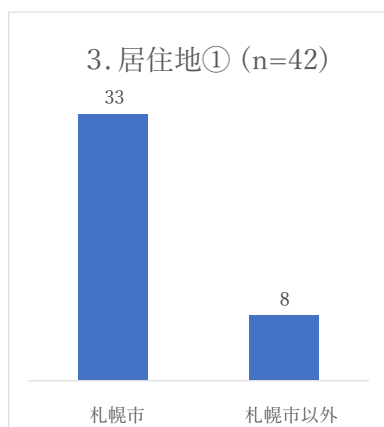
■ 選択回答欄 集計グラフ問 A) あ

あなたの性別・年齢は・・・ (グラフ 1.2)

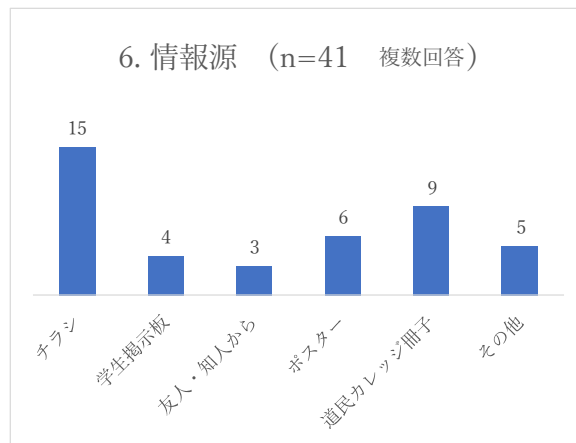
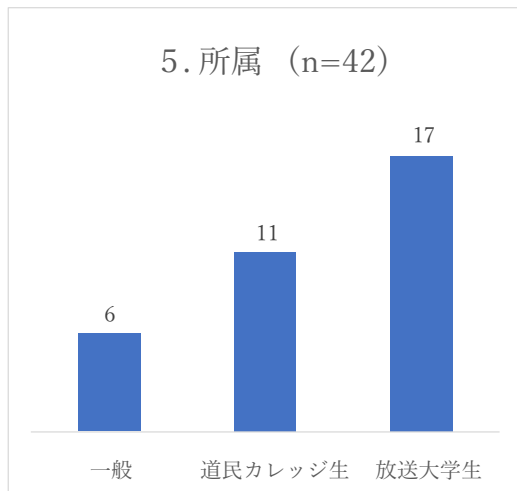


問

B) あなたのお住まいは・・・ (3.4)

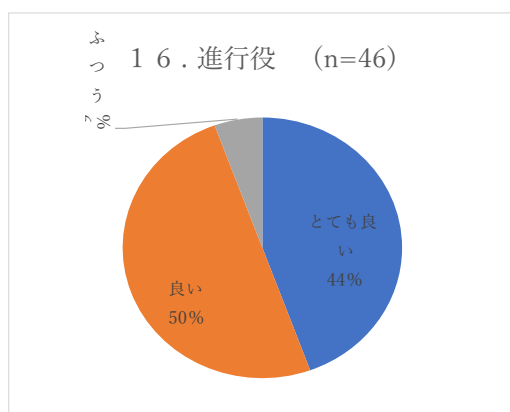
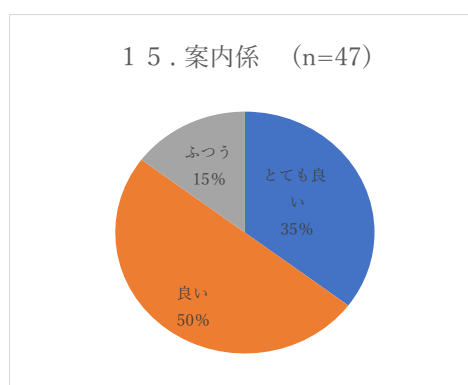
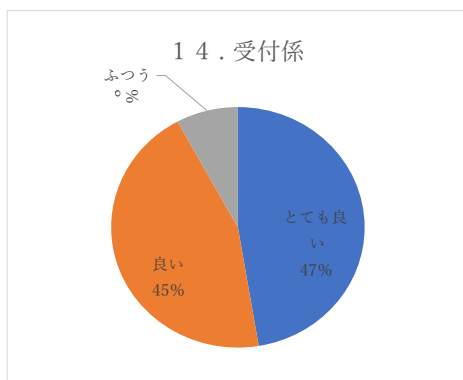


問 C) あなたは（放送大学生・北大生・放大同窓生・道民カレッジ生・一般・その他） (5) 問 D) あなたはこの発表会を何によって知りましたか (6)

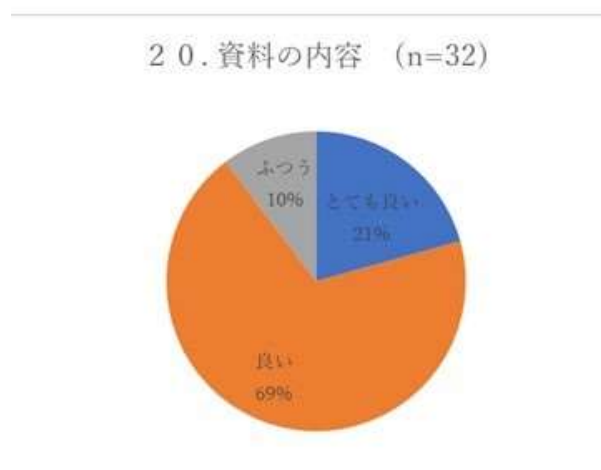
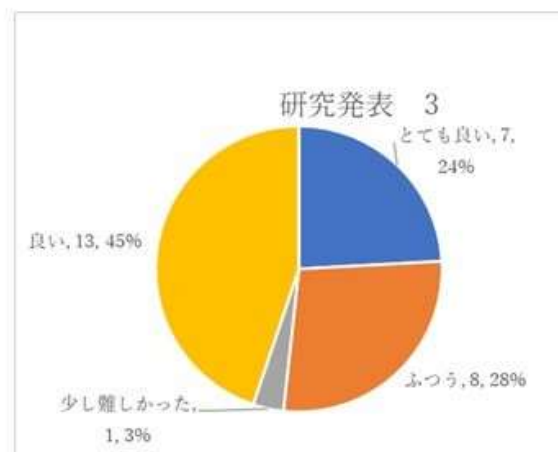
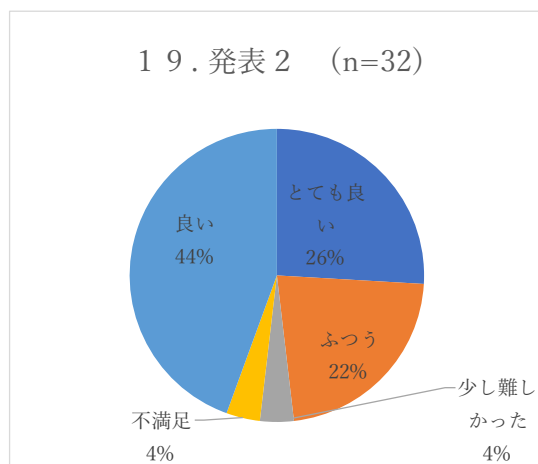
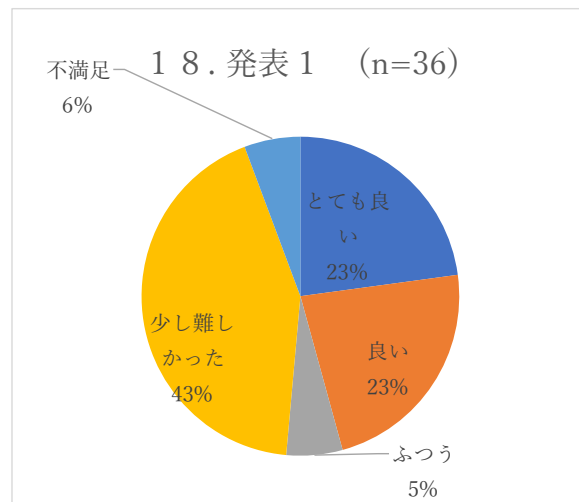
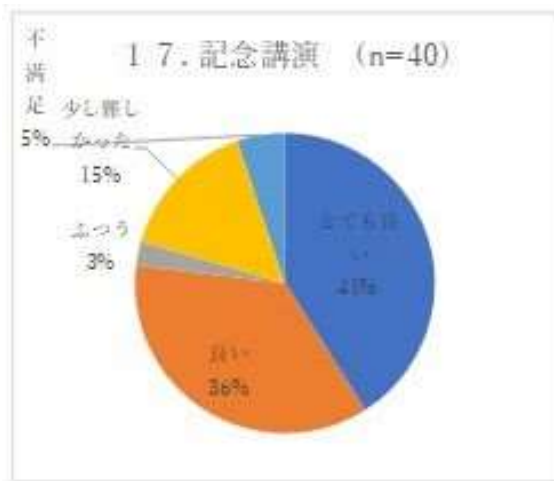


● 会場について・・・

受付係の対応(14)、案内役・会場係(15)、進行役の説明等(16)



内容について 記念講演の内容・発表 1・2・3・4 の内容・資料の内容



記述欄 集計

記述欄のある設問

- ・会場について

- ・内容について
- ・今後研究したいテーマがありますか？
- ・今回の研究発表について、ご意見・ご感想などをお書きください。

会場についての意見	
1	会場もゆったりした感じで気持ちが良い
2	まあまあ寒いと感じた内容についての意見 テーマを1つにまとめて進められたので非常にわかり易かったと思う。また一般
1	的な例を取り上げて当てはめて話されたのもわかり易かったと思います。今回発表
	はとても難しく、理解ができず放送大学生は、何年もかけ、素晴らしい
2	
研究をしていることを知る。	
3	研究発表会 1 政川さんの発表はレベルが高い感じを持ちましたが、残念ながら 受ける側としてはむずかしい印象を持ち、理解ができませんでした。発表 2 矢
4	舗さんの研究発表は自画像の持つアートの世界に目を開かせられた思いでした。 いろいろ参考になりました。
5	多くの資料にもとづき、ていねいな論考を進められたことが伝わりました。研究 発表かくあるべしと思いました。発表者の皆様に敬意を表します。
発表 1、	とても難しい専門分野で興味深かったです。説明が少し早口で入力されていたので、少し聞
6	きづらい部分がありました。しかし、努力されてよく研究さ
7	れていたと思いました。発表 2、自画像を分析していくということで、とても興味深 かったです。 発表 1 は道民カレッジとしての準備としては、内容が難しかったが、興味あるテ
8	ーマだった。 それぞれの視点がとても興味深かったです。
9	研究のあとがわかりました。
10	よく調べていた内容で優れた発表者たちだったと思います。
	発表 1 の内容は教授の説明不足。何を言ってるか解らず、そもそもダークマター
11	とは何ですか?少しでも宇宙に近づいていきたいので・・・
13 苦	発表 1 は難しい課題を長く丹念に考えてこられたのですね。発表 4 インタビュー 労したようですね。幅広いジャンルの発表があり、色々な視野を広げることが出来、 良かったと思います。卒論テーマの発想の面白さが感じられました。

14	発表 1、政川俊康氏発表のダークマターに係る初期宇宙論は難しい理論であり、内容は高尚で、科学誌等で発表して頂きたいと思います。
15	初めて参加しました。分からないところもありますが、興味の世界が広がりました。
今後、研究したいテーマがありますか	
1	今の政治の現状は・・・この方面の研究はないのですか。
2	北海道の雇用に関するテーマを研究したいと思っています。
今回の研究発表会についての意見・感想	
1	研究発表された 4 名の方は、資料等の調査を広範囲にわたり実施されたことが理解できました。放送大学の制約された環境でよく頑張られたと思います。
2	研究発表 1 は内容が難しかった。以下の発表については理解できる範囲でとても参考になった。日本、フランス料理にも興味を持った。
3	発表者が発表中にフラッシュ撮影はやめてもらったほうが良いと思います。(他大学の教授も来られているためマナー的にも。
4	今回研究発表者は長い研究をもとにして発表していた。今後も研究発表会を継続して行ってほしい。
5	初めて聞いたので非常に勉強になりました。次回も参加したいです。
6	自分の場合を考えて聞きました。参考になりました。
7	いろいろ参考になりました。

次回開催予告

第17回放送大学研究発表会

2019年10月12日(予定) 土曜日午後1時から

博士課程修了・修士課程修了・学部卒業の皆さま

研究発表会実行委員会では研究発表者を募集しています。

第17回放送大学研究発表会実行委員会実行委員長

宮崎新吾

受付窓口 FAX011-642-2389 e-mail tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp

9月22日 平成30(2018)年前期の学位記授与式がありました

放送大学北海道学習センター(出席者18名)、旭川サテライトスペース(出席者6名)で執り行われました。苦難を乗り越えてはれて学位を手にした方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから78名の新学士と新修士が旭川サテライトスペースから7名の学士が誕生しました。





北海道学習センター所長

新 田 孝 彦卒業生の皆様、このたびのご卒業まことにめでとうございます。

放送大学で学ぶ方は、その目的も、学び方も実に多様ですが、特に全科履修生の皆様はそれぞれ何がしかの制約や困難を抱えての学修だったのではないかと推察いたします。今回は全道で85名の方々が卒業を迎えられましたが、まずはその努力に対して敬意を表します。また、放送大学のシステムをうまく活用し、ご自分の学びの幅を広げて特別賞を授与された方々にも、心からお祝い申し上げます。

皆様の卒業を祝して、私からの期待を二つ申し上げたいと思います。一つは、大学を卒業することの社会的な意義について、もう一つは、知識というものの持つ独特な性格に基づく生涯学習の意義についてです。

放送大学の学部名は「教養学部」です。このことの意味を少し考えて見ましょう。ヨーロッパの大学の歴史を振り返りますと、そもそも「ユニヴァーシティ」という言葉は、ラテン語の「ウーニベルシタース」という語に由来しますが、これは「ギルド」や「ツunft」という名称（世界史で習ったことがあるかと思いますが）と同じく、「同業者仲間」という意味をもっていました。それでは、大学はどんな同業者の集まりかと言えば、それは、学習意欲に燃える「学生団」と教育に情熱をもった「教員団」という二つの集団の集まり、一言で言えば「学問によって結びついた仲間」というのが「大学」という言葉の本来の意味だということになります（もちろん複雑な組織である現代の大学では学生も教員も「事務職員」の力によって支えられていることを忘れてはなりません）。この大学の中で「教養学部」は、神学部や法学部、医学部といった専門学部に進むための前段階として「リベラル・アーツ」を学ぶところでした。「リベラル・アーツ」は、当時は七つの科目（「言語」に係わる文法、修辞、弁証と、「数」に係わる算術、幾何、天文、音楽）で構成されていたために「自由七科」とも言われますが、たんな

る「七科」ではなく「自由」という形容詞が付けられているのはなぜでしょうか。この言葉の名付け親である古代ローマの哲学者キケロによれば、一つは、これらは奴隷ならぬ自由人にふさわしい学問だからということです。奴隷には直接生産に係わるような実用的知識は求められましたが、学問をするといった贅沢は許されていなかったということでしょう。しかし、より重要なのは、ここには学問が精神を自由にするという意味も含まれていたということです。すなわち、学問が「無知や、無知に起因する偏見から精神を解き放つ」ということです。

もちろん、ご自分の仕事に役立つ知識を求めて放送大学に入学したという方も多くいらっしゃいますが、全科履修生であれば、それ以外にも多くの学問に触れてこられたはずです。大学を卒業するということは、大変に誇らしいことであり、個人の歴史の中で大きな意味を持ちます。しかし、皆様には、この卒業や修了をただ個人的な出来事として記録し、記憶するだけではなく、一人ひとりが「無知や偏見を免れた自由な精神」をもつことが「自由で寛容な社会」の実現につながるということ、そのためにこそ「教養学部」は存在するのだということ、つまり大学というものの社会的な意義についても時折思い起こしていただきたいと思います。

次に、生涯学習の意義についてですが、これを考えるために、「知識」というもののもつ不思議な性質、すなわち知識には、「より多くのことを知れば知るほど知らないことが増える」という逆説的な性質があるということに触れてみたいと思います。丸い円を思い描いてみてください。その円が大きくなればなるほど（知っていることが増えれば増えるほど）、円周（知っていることの限界＝知らないこと）も大きくなります。私たちにとって、「知らない」ということは「知らないことに気づく」ということと同義です。仮に、生まれたばかりの赤ん坊のように文字通り何も知らない人がいるとすれば、その人は自分が何も知らないということにも気づくことはないはずです。「知らないこと」は「知っていること」の隣にあります。だからこそ、知れば知るほど知らないことが増えるということになるのです。生涯学習というのは、このように「知識の本質」から要請されることです。もちろん、生涯学習のあり方は一人ひとり異なっており当然ですし、放送大学で学ぶことだけが生涯学習ではありませんが、学ぶ姿勢だけは生涯持ち続けていただきたいと思います。放送大学において学ぶ楽しさを味わった皆様には蛇足だったかもしれませんが、あえて私の期待をお話いたしました。

皆様の今後のご活躍を心よりお祈りいたします。



卒業・修了を祝う会の様子

卒業を祝う会は月 22 日(土) 学位記授与式の後、同窓会主催による「卒業を祝う会」が、15 時 30 分から行われ、各テーブルには、紅白の饅頭と、お赤飯が用意されました。オープニングは、学生サークル「うたの会」の「放送大学学歌」、「北海道放犬生賛歌」「喜びの歌」で始まり、主催者の沖野同窓会長が挨拶、新田北海道学習センター所長・柴田事務長の来賓挨拶があり、卒業生代表 森 務さんよりセンターに図書寄贈目録が新田所長に贈呈されました。

学生サークルうたの会から歌のプレゼント





〈卒業された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です〉

(写真は祝う会様子より)

《生活と福祉コース》

札幌市北区 高橋留美子 今振り返って考えると、私の学生生活は、地震(東日本大震災)に始まり、地震(北海道胆振東部地震)に終わったように思います。私は出産、障害を持った子供達の育児、不登校、親の介護、看取りなどの為、13年間家庭に入りました。その後、復職した先が重度心身障害児者の施設でした。言語でのコミュニケーションが取れず、全身のトータルアセスメントが出来るスキルと知識が求められ、日進月歩進化している医療技術にも苦しめられました。独学で勉強を続けましたが、範囲があまりに広く暗中模索の毎日でした。そんな中で、東日本大震災が起きてしまい、自身の更年期障害からくる体調不調もあり、なんとも混沌した中で1日が過ぎて行きました。



今でも不思議ですが、この不完全感を拭うのは、何かをしないではいられない、そんな気持ちで飛び込むように入学しました。まさに何者かに「ポン」と背中を押された感覚でした。何十年ぶりかの試験勉強は、身体の不調と頭の硬さにいらつきながらの毎日でした。学習を続けていくうちに、知る喜びや楽しさ、自信もついていった様に思います。福祉のみならず心理教育も一緒に学ばせて頂けた事、その分野で著名な先生から教授出来る点は放送大学のメリットと感じました。

中でも嬉しかったのは、私が履修していた教科に興味を持ち、子供が大学進学を果たしたことでした。子供と共に頑張ろうと意気込んで、いつも試験勉強しましたが、先に眠ってしまうのは大抵母の方でした(笑) 今となっては良い思い出です。最後に沢山の方々との出逢いや、支えて下さった皆様には感謝が尽きません。大きな贈り物を頂き、本当に有難うございました。





同窓会の地域貢献コーナー

《生活と福祉コース》石狩

市 森 務 私は専科履修生として平成 2 年に入学しました。

全科履修生への志望は当時からありましたので途中長期中断しましたが、心機一転再入学し、とうとう卒業を迎えることが出来ました。途中病で 2 年間休学したこともあり、やっと念願が果たせたことはこの上ない喜びです。ここで学んだことは、残りの人生に豊かさと希望を与えてくれることでしょう。

本当にうれしい!!最後になりますがご指導いただいた先生方には心より感謝申し上げます。また、支え続けてくれた家族にも感謝の気持ちで一杯です。ありがとう。

そして、これからもよろしく願いいたします。

・奥尻島海岸清掃(8月1日から8月3日)

幹事 岩崎英子

2泊3日で海浜美化をすすめる会の奥尻島のごみ拾いに行ってきました。1日と3日は移動日で2日の午前2時間と午後2時間半、気温30度超えのなか賽の河原、無縁島海岸の清掃をして来ました。プラスチックごみは触ると崩れる程、放置されたものも多く、拾い応えがありました。島民の方は優しくて賽の河原のお土産屋さんには冷たい水をご馳走



してくれ「大変だね、ありがとうね、ご苦労さん」と言葉をかけてくれた。とても美味しい水で元気ができました。ごみを道路に集めていると近くの工事現場の人が声を掛けてくれ回収して集積所まで運んでくれ大変助かりました。ごみ拾いにきたと話すと皆さんありがとう、ご苦労様とうれしい言葉を掛けてくれ、また頑張ろうという元気を貰いました。また機会があったら参加したいです。

・積丹町島武意海岸(日本渚100選)・幌武意海岸清掃(9月1日から9月2日)

9月1, 2日で積丹のごみ拾いに行ってきました。総勢18人で1日二時間2日無事に怪我なく終了しました。ゴミ拾い後の岬の湯、最高でした。足場が石ころでかなり膝にきました。来年も足の筋力鍛えねばと考えています。



- ・第4回インターナショナルビーチウォーク(9月23日) 石狩浜の清掃に参加しました。
- ・石狩市浜益区川下海岸清掃(10月21日)に参加しました。



今年も海岸のプラごみをたくさん回収しました。

道史学習サークル 例会 200 回記念講演会

私共の道史学習サークルは2004年(平成16)4月に北海道学習センターの学生サークルとして正式に発足し月1回の例会を重ねてまいりました。そして2018年(平成30)12月に200回目の例会をむかえることとなりました。

今までの会員諸氏及び学友会・学生諸氏のご協力と御助力に深く感謝申し上げます。例会200回を記念して、下記により講演会を開催することとなりました。

多くの学生の皆さんの参加をお待ちしております。

記

◆日 時：平成30年12月5日（水） 14：00 ～ 16：00
◆場 所：放送大学北海道学習センター 中講義室

◇ 道史学習サークルの歩み 成田 稔（道史学習サークル代表）
◇ 北海道150年と私たち 講師：外岡 秀俊 氏
（ジャーナリスト、元朝日新聞編集局長）

※会場には「道史学習サークルの歩み」を展示しています。

主 催：道史学習サークル
後 援：北海道学習センター



うたの会 ♪ ♪からの誘い



「大学は歌う～第九合唱プロジェクト～」に 参加しましょう！！

練習日は第2・3火曜日

指導者は早坂美彦先生

楽譜はカタカナ付き

会費納入と新入会員募集のお知らせ

せ

2018年度の継続会員の方は、今年度の年会費 1,000 円を下記口座へお振り込みくださるようご協力をお願いします。
また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金 1,000 円、年会費（初年度）1,000 円を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）また、70 歳以上の方は、1 万円で終身会員となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『ロコミ』で、放送大学に入學して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター
TEL 011-736-6318

新入会員のご紹介！！

2018年9月卒業生

- ・（人間と文化）徳田 祐子・大久保 淳子
- ・（生活と福祉）森 務
- ・荒木 寿美男・木村 海成・阿部 芳克

（敬称略・順不同）

2018年9月30日現在以上 6名・住所・電話番号
などの変更のときはご連絡をお願いします。

編集後記

今年の北海道にはこれまでにないほどの台風に襲われました。地球温暖化と異常気象の関連性はほとんどの気象学者が指摘しているところですが、これについてのもっとも信頼できるデータを提供している国連の下部組織 IPCC は「温暖化の主因が人間の影響である可能性が『きわめて高い』（95%以上）」としています。つまり温暖化は人間の努力で防げると断言しています。しかし先に米環境保護庁（EAP）長官のスコット・プルーイット氏は就任会見で「この考え方に同意できない」との見解を示しました。

12か語に通じ、専門の生理学や地理学はもとより多岐にわたる領域に精通し、米国の知性を代表するジャレッド・ダイヤモンドはその著書のなかで「文明崩壊」の際には、次の5つの要

「会員の声・読者の声」募集中！ 現

在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

(宛先) 〒060-0817

札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学構内放送大学北海道学習センター気付放送大学北海道同窓会学習センター事務室内ポストに直接投函可

FAX・Tel 兼用：011-642-2389 中根

素が関係すると述べています。①環境に対する
取り返しのつかない人為的影響②気候の変化
③敵対する近隣諸国との対立④友好国からの疎
遠⑤環境問題に対する誤った対処、がそれ
です。アメリカの知性が「その一つ要素でも文明
の崩壊は起こりうる」と警鐘を鳴らしているに
もかかわらず、トランプ政権はこの5つの陥穽
(かんせい) すべてに当てはまる行動をとり続
けています。来年も我々はまた異常気象に苦し
むことになるのでしょうか。

(編集委員長 沖野茂夫)